

Q. 資源ごみ持ち去り禁止条例制定を A. 来年4月からの実施予定です



村井慶太郎 議員

問

資源ごみの持ち去りは、町民の皆さんと協働して進めているごみの減量やリサイクルの推進に大きな影響を及ぼす。また、通学時間帯等の乱暴な運転やごみ集積場の散らかし等の不安感を訴える声も多数聞く。そこで、町民の安全・安心を第一に考え、ごみ集積場から資源化物の持ち去り行為を禁止する条例を近隣市町同様制定してはどうか。

答

町民課長

資源ごみの持ち去り防止に努めていますが、思うように効果があらわれないのが現状です。

当町では廃棄物の処理及び清掃に関する条例を改正して、資源ごみを持ち去った者に対しては罰則を科すといった内容を含めた改正案を検討しています。できれば12月議会には条例の改正案を提案して、来年4月から実施したいと考えています。

問

浸水対策計画を立てて早急に対応を

浸水災害は、本町にとって永遠の課題だ。行政は町民の財産・生命を守る義務があると思うが、浸水対策計画をしっかりと立てて、早急に対応をする考えを。

答

浸水被害の軽減に努めています

産業建設部長

浸水に対して土のうの前もつての配備や各種ポンプ施設において早目の操作を行い、浸水被害の軽減に努めています。

問

健康増進事業の拡充を求めるが考えを

敬老月間健康増進事業の申込方法の見直し、さらには、9月の敬老月間のみならず、この健康増進事業の拡充を求める考えを伺いたい。

答

定員の増員も含めて検討します

健康課長

募集方法については、申込期間が今までは定員割れをしていたので、事業実施の始まった後でも申し込みが可能です。今

問

多選自粛条例についての考えは

多選の問題点としては、予算の決定権や人事権などを一手に握ることになる。長期政権が続くと腐敗化が起こりやすく、腐敗や汚職がはびこり、不祥事件が発生しやすくなる。元加戸知事も任期満了を待たずして早期辞職した。

答

松前町のさらなる発展のために力を尽くします

町長

知事や市町村長などの多選については、何期目からが多選であるのか、多選のメリットやデメリットなどさまざまな議論のあることは承知をしています。

この多選の問題とあわせて年齢制限であるとか、世襲議員のありようなどについても議論が行われています。

全国的に見て、12の市町が多選自粛をしているようだ。

白石町長も当初は、首長の多選は好ましくない、3期以上はするべきではないと持論を唱えていた。

まさに、12月の任期満了を迎え3期目が終わるが、これに対する町長の考えは。

何よりも住民の皆さんが市長や町村長のまちづくりの姿勢・実績に対して判断をして決めることが大事だろうと思います。



浸水対策は、早目の操作が♂